

令和5年度 恵那北小学校だより

5月20日号

げんきたっ子



体験が成長を助ける

校長 市川 伸美

子供たちが植えたアサガオやヘチマが芽を出し、畑に植えた野菜も日光を受けてすくすくと育っています。子供たちが進級してから、2か月近く経ちましたが、新しい学習の仕方や役割にも慣れて、その学年に合わせた成長を感じます。

先日、3年生の理科の授業で、数種類の種を観察した時のことです。アサガオやヒマワリの種は見たことがありますが、ピーマンやオクラの種はどれなのか迷う姿がありました。すると、「ピーマンは、料理したときに中にあったのと同じだ。」と体験から発言する子がいました。「なるほど、私も見たことがある。」と、自分の体験を思い出す子も。残りの種がオクラであることは分かったのですが、子供たちは見たことがありません。「では、オクラはどこに種ができるのかな。」という担任の問いかけに、「オクラを食べた時、中にあったつぶつぶが枯れると黒くなるんじゃないかな。」「そうかなあ。」と半信半疑。そこで、種をまいて育てることが楽しみになりました。さて、オクラの種はどこにできるのでしょうか。夏以降に答えが出る予定です。



理科の学習で実際にアオムシの卵と幼虫を観察する3年生

また、毎日職員室へ各学年の係の子が配布物を取りに来ます。「失礼します。〇年生の〇〇です。お手紙を取りに来ました。」とよく聞こえる声で伝えます。1年生は、最初は担任の先生について来てもらって、先生が言うせりふを小さな声で復唱していました。今では、一人で来て堂々と伝え、役目を果たしています。

子供たちは日々の体験の中で成長しています。体験の中で感動し、考えます。そしてそれが自分のものとなり、自信をもつことにもつながります。これからたくさんさんの体験を重ね、仲間と共に成長していくのが楽しみです。



生活科で野菜を植える体験を通して、多くのことを学んでいる2年生



みんなの前で話す練習をする1年生